

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 における分析結果及び授業改善のポイント

## 授業改善のポイント

### 【調査目的】

- 1 児童の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教職員の指導力の向上を図り、学力向上施策に資する。
- 2 教育課程や指導方法等にかかわる課題・解決策を明確にし、児童一人一人の学力の定着と伸長を図る。
- 3 保護者及び市民に対し、本校児童における学力の定着状況について、説明責任及び結果責任を果たす。

### 【調査学年】

- 第6学年 59名

### 【調査日】

- 令和6年4月18日（木）

### 【調査の内容】

- 1 教科に関する調査〈選択式・短答式・記述式の3種類〉
  - ・国語
  - ・算数
- 2 児童質問紙調査
- 3 学校質問紙調査

## 目次

1	国語の調査結果	1
2	国語の問題と分析（学習のつまずきがみられる問題	3
3	国語科における授業改善のポイント	5
4	算数の調査結果	7
5	算数の問題と分析（学習のつまずきがみられる問題	9
6	算数科における授業改善のポイント	11
7	児童質問紙調査結果の概要	13
8	各教科等における授業改善のポイント	裏表紙
9	カリキュラム・マネジメント	裏表紙

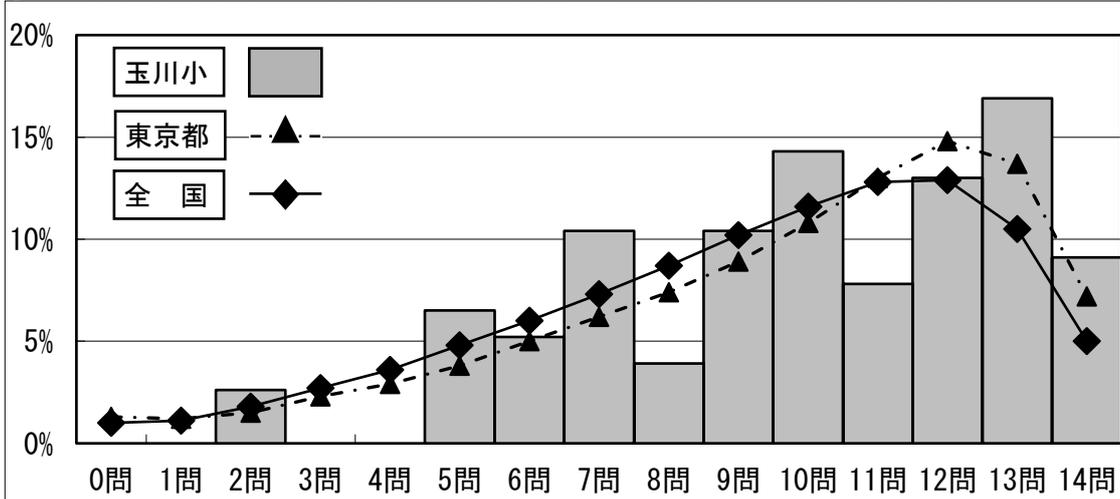
令和6年 8月  
昭島市立玉川小学校  
校長 小瀬 和彦

# 1 国語の調査結果

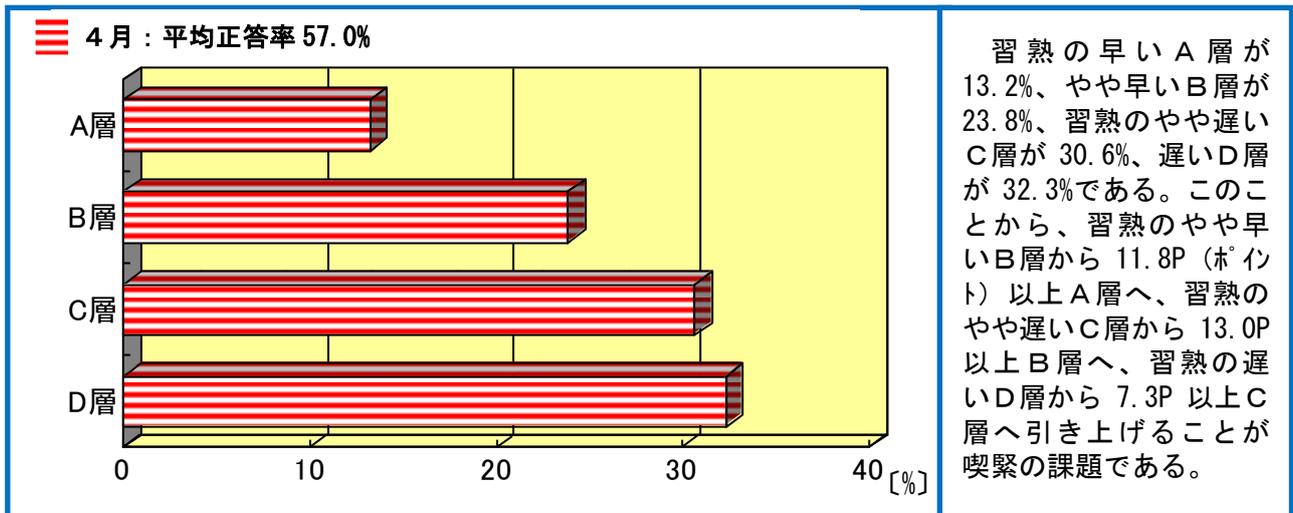
## (1) 国語の調査結果の概要

平均正答率〈%〉	本校 57.0%	東京都 68.0%	全国 63.4%
----------	----------	-----------	----------

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



## (2) 学習指導要領の領域と観点別結果

			対象問題数 (14 問)	平均正答率 (%)
全体			14	65.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	61.0
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	89.8
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	57.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.1
B 書くこと		2	70.3	
C 読むこと		3	59.9	
評価の観点	知識・技能		6	65.3
	思考・判断・表現		8	64.8
	主体的に学習に取り組む態度		-	-

### (3) 国語の設問ごとの正答率と分析

問題 番号	問題の概要 (出題の趣旨)	本校		全国 (公立)	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したのとして、適切なものを選択する。(伝え合う内容を検討できるか。) 〔話すこと・聞くこと、思考・判断・表現〕	81.4%	1.7%	62.5%	0.7%
1二 (1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する。(話し言葉と書き言葉との違いに気付けるか。) 〔言葉の特徴や使い方、知識・技能〕	72.9%	0.0%	75.9%	0.6%
1二 (2)	<b>オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。</b> (資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫できるか。) 〔話す・聞くこと、思考・判断・表現〕	<b>52.5%</b>	<b>0.0%</b>	<b>52.9%</b>	<b>0.7%</b>
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したのとして、適切なものを選択する。(伝え合う内容を検討することができるか。) 〔話す・聞くこと、思考・判断・表現〕	64.4%	1.7%	63.8%	0.9%
2一 (1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したのとして、適切なものを選択する。(目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりできるか。) 〔書くこと、思考・判断・表現〕	83.1%	0.0%	80.3%	0.9%
2一	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したのとして、適切なものを選択する。(図などによる語句と語句との関係の表し方を理解できるか。) 〔話す・聞くこと、思考・判断・表現〕	89.8%	0.0%	86.9%	0.9%
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く。(目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように工夫できるか。) 〔話す・聞くこと、思考・判断・表現〕	57.6%	10.2%	56.6%	4.9%
2三	【高山さんの文章】の下線部ア、イを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)(なげる)(学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。) 〔言葉の特徴や使い方、知識・技能〕	47.5%	23.7%	43.4%	13.2%
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する。(主語と述語との関係を捉えることができるか)〔言葉の特徴や使い方、知識・技能〕	52.5%	6.8%	62.3%	2.0%
3二	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する。(登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるか。) 〔読むこと、思考・判断・表現〕	61.0%	13.6%	66.9%	2.6%
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。(人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるか。) 〔読むこと、思考・判断・表現〕	49.2%	32.2%	72.6%	12.6%
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。(日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付けるか。) 〔言語文化、知識・技能〕	57.6%	27.1%	74.6%	7.6%





## (5) 国語 授業改善のポイント

- ◇ 課題 「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして、表現する」ことに課題がある。
- ◇ 改善のポイント 「読むこと」、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」を系統的・計画的に指導する。

「読むこと」：《低：場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像して読む。》、《中：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の様子の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読む。》、《高：人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして読む。》

「読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと」をバランスよく設定する (①～③)。

- ① 「読むこと」⇒ **あらすじ (骨子)、心に残ったところ、その理由を考えて**
- ② 「話すこと・聞くこと」⇒ **伝え合い**
- ③ 「読むこと」「書くこと」⇒ **再読み、記述する。**

### ◇ 展開例 「心に響いた (残った) 物語を紹介 (推薦) しよう」

学習過程	主な学習活動	指導上の留意点
第一次 (2時間) 物語の魅力を紹介カードにまとめる	<p>〈読むこと〉 めあて「心に響いた物語を紹介し合おう」</p> <p>① 物語を読み、場面の移り変わりと、登場人物の行動や心情と結び付けて読む。</p>	<p>■ 低：場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉える。 中：場面の移り変わりと結び付けて、登場人物の行動や気持ちを捉える 高：人物像や物語を具体的に想像したり、表現の効果を考えたり捉える。</p>
第二次 (1時間)	<p>〈話すこと・聞くこと〉⇒ 〈読むこと〉⇒ 〈書くこと〉</p> <p>② 物語の読みを振り返り、「心に響いた叙述 (場面)」に線を引き、理由を付けて友達に伝え合い、紹介カードを書く。</p>	<p>■ ペアで「心に響いた叙述 (場面)」を伝え合い、その魅力について話し合う。3回以上 ■ 話し合いでは、お互いにアドバイスや感想を必ず発言できるようにする。 ■ もう一度、読み直してもよいことを伝える。 ■ 魅力について話し合うことで「心に響いた理由を明らかにして、紹介カードに書く。</p>
第三次 (2時間)	<p>〈話すこと・聞くこと〉⇒ 〈読むこと〉⇒ 〈書くこと〉</p> <p>③ 紹介カードを伝え合い、紹介カードを完成させる。 ④ ブックトークを行う。</p>	<p>■ ペアで「心に響いた叙述 (場面)」を伝え合い、その魅力について話し合う。3回以上 ■ 話し合いでは、お互いにアドバイスや感想を必ず発言できるようにする。 ■ 読み直して、書いてもよいことを伝える。</p>



導入で!

これまでの物語の学習で、どのように読むと分かりやすかったですか。

伝え合って!

友達と伝え合ってどうでしたか?



教師がモデルを示す

私がぜひ読んでほしいのは、「白いぼうし」です。このお話には不思議なおもしろさが味わえる文がたくさん散りばめられていて、それらがある一つの秘密につながっているのです。

「ごんぎつね」で、物語全体に広がっている登場人物の行動や会話に着目して読んだら、気持ちの変化がよく分かりました。今回行動や会話に着目して魅力を見付けたいと思います。



友達と伝え合うことで、紹介する理由がはっきりしました。場面と場面とを関係付けて考えることができたので、また友達のことを聞きたいです。



「紹介カード」の例

きつねの写真

あまみきみこ 作

◇あらすじ

◇心に響いた叙述 (場面)

◇その理由

②/4時：「心に響いた」叙述（場面）に線を引き、理由を付けて友達に伝え合う

■文章の中から、心に響いた場面や叙述を見つけ、その理由を考える



「あたりの木がいっせいにざざっと…」というところが不思議な感じがして、心に響いたよ。ここをこの物語の魅力として推薦したいんだけど、不思議なところはほかにもあるかもしれない。友達の考えも聞いてみよう。

□心に響いた場面や叙述とその理由を明確にするために…

- 心に響く叙述を見付ける
  - ・ 登場人物の行動、会話、心情、相互関係
  - ・ 場面についての描写
- 複数の場面の叙述を相互に関係付ける
- 自分の知識や経験、読書体験などと結び付ける等

グループで交流し、自分の考えを明確にする



「きつねの写真」の不思議なところを紹介(推薦)しようと思っているんだけど。

どこが不思議だと思ったの。



「あたりの木がいっせいにざざっと…」というところから、木が葉をゆすってとび吉を呼ぶなんて不思議な感じがすると思ったんだ。ほかにもあるかな。

「まるでまっていたように…」というところも、林の中に戻っていったはずの松ぞうじいさんが急に現れたから不思議だと思ったよ。



そうか、Aさんは情景を、Cさんは登場人物の行動を基に考えたんだね。不思議な感じがする表現は物語全体に広がっているんだ。



みんなの考えを聞いて、不思議なところが魅力だという紹介(推薦)の理由がはっきりしてきたよ。もう一度、この物語を読んで確かめてみるね。

学習を振り返る



交流を通して、紹介(推薦)理由がはっきりしてきた。Cさんが意見をもらうことで、登場人物の行動からも不思議な感じがすることが分かった。紹介(推薦)理由をもう一度考え直して紹介(推薦)の文章を書きたいと思う。

交流を通して、自分の考えを明確にするために…

- 「自分の考えをより確かなものにしたい」、「ほかにもあるかもしれないから聞いてみたい」など、何のために交流するのかを児童が実感できるようにします。
- 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを、児童が自覚することができるようにします。
- 自分の考えや交流したことをノートにメモすることで、自分の考えがどのように変わったかを記録に残し、紹介(推薦)の文章を書く際に活用できるようにします。
- 第三次で、自分が選んだ物語の魅力について交流する際は、次のような交流が考えられます。
  - ・ 同じ物語を選んだ児童同士で交流することで、同じ物語でもいろいろな考えや感じ方があることに気付くことができるようにする。
  - ・ 違う物語を選んだ児童同士で交流することで、自分の考えた魅力が物語の魅力の視点(登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など)に合っているか吟味することができるようにする。また、自分が選んだ物語と他の物語とを比較しながら考えをまとめることができるようにする。

視点を明確にして、学習を振り返るために…

- 学習して分かったことや次に生かしたいことなど、何について振り返るのかを明確にすることが大切です。
- 交流して得たことや友達の意見を聞いて考えたことなど、交流について振り返ることも大切です。

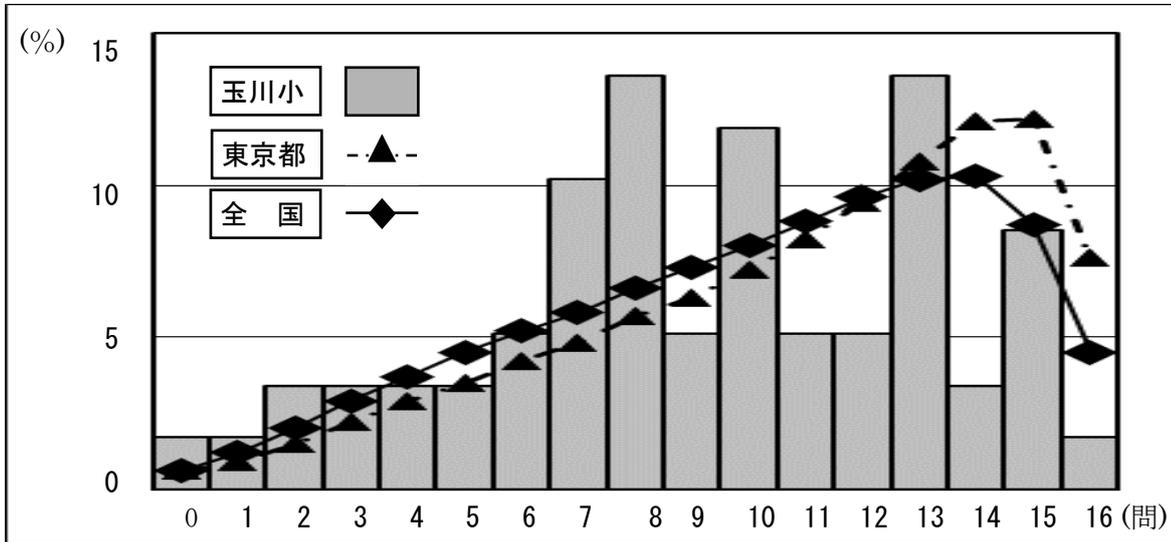
自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えを明確になるということを児童が自ら実感できるようにする。

### 3 算数の調査結果

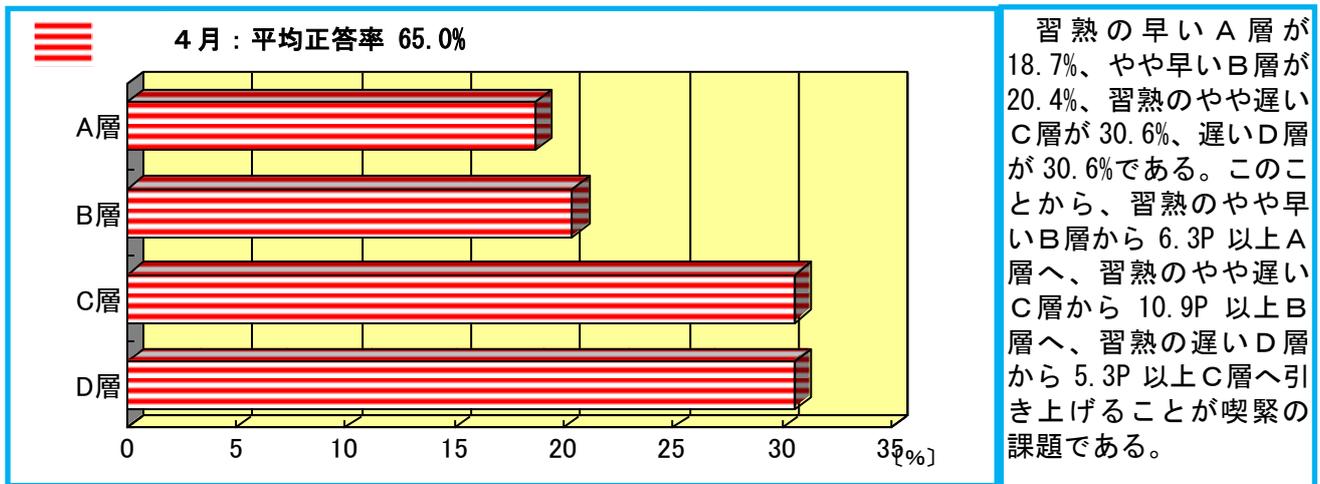
#### (1) 算数の調査結果の概要

平均正答率〈%〉	本校 65.0%	東京都 70.0%	全国 67.7%
----------	----------	-----------	----------

##### ① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



##### ② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



#### (2) 学習指導要領の領域と観点別結果

		対象問題数 (16 問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	全体	16	57.0
	A 数と計算	6	61.3
	B 図形	4	58.9
	C 測定	0	—
	C 変化と関係	3	42.4
評価の観点	D データの活用	4	59.3
	知識・技能	9	65.7
	思考・判断・表現	7	46.7
	主体的に学習に取り組む態度	—	—

### (3) 算数の設問ごとの正答率と分析

問題番号	問題の概要	本校		全国(公立)	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
1(1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ。(問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるか。) 〔A数と計算、知識・技能〕	59.3%	0.0%	62.1%	0.2%
1(2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。(数量の関係を、□を用いた式に表すことができるか) 〔A数と計算、知識・技能〕	86.4%	1.7%	88.5%	0.3%
2(1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 $350 \times 16$ の積の求め方と答えを書く。(計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるか。) 〔A数と計算、知識・技能〕	57.6%	8.5%	56.9%	3.4%
2(2)	除数が $1/10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ。(除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているか。) 〔A数と計算、思考・判断・表現〕	62.7%	3.4%	69.1%	1.3%
3(1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ。(直方体の見取図について理解し、かくことができるか。) 〔B図形、知識・技能〕	74.6%	0.0%	85.5%	0.6%
3(2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。(直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているか。) 〔B図形、知識・技能〕	71.2%	1.7%	71.3%	0.8%
3(3)	<b>直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。(球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるか。)</b> 〔B図形、思考・判断・表現〕	<b>22.0%</b>	<b>13.6%</b>	<b>36.6%</b>	<b>9.8%</b>
3(4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く。(角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるか。) 〔B図形、思考・判断・表現〕	67.8%	5.1%	72.0%	1.8%
4(1)	$540 \div 0.6$ を計算する。(除数が小数である場合の除法の計算をすることができるか。) 〔A数と計算、知識・技能〕	52.5%	11.9%	70.1%	3.1%
4(2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く。(速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるか。) 〔A数と計算、思考・判断・表現〕	67.8%	11.9%	70.0%	3.3%
4(3)	<b>家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。(道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるか。)</b> 〔A数と計算、知識・技能〕	<b>30.5%</b>	<b>6.8%</b>	<b>31.0%</b>	<b>2.4%</b>
4(4)	<b>家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。(速さの意味について理解しているかどうか。)</b> 〔A数と計算、知識・技能〕	<b>28.8%</b>	<b>8.5%</b>	<b>54.1%</b>	<b>4.5%</b>
5(1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く。(円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるか。) 〔Dデータの活用、知識・技能〕	81.4%	6.8%	80.8%	1.8%
5(2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く。(簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるか。) 〔Dデータの活用、知識・技能〕	74.6%	10.2%	73.3%	3.9%
5(3)	<b>折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。(折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。)</b> 〔思考・判断・表現〕	<b>32.2%</b>	<b>22.0%</b>	<b>44.0%</b>	<b>12.6%</b>
5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く。(示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうか。) 〔Dデータの活用、思考・判断・表現〕	49.2%	10.2%	49.3%	4.0%

## 4 算数の問題と分析・授業改善のポイント

### (1) 学習のつまずきが見られる問題と分析

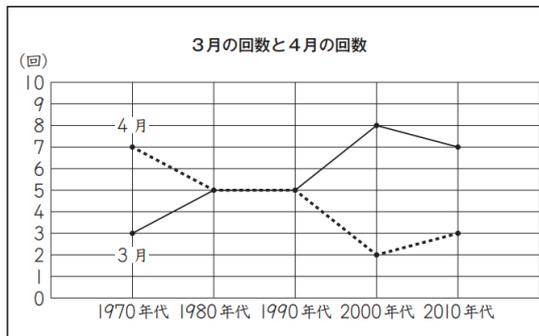
#### 【問題の概要】算数5(3)

こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることが分かりました。



くるみ

1970年代は、3月の回数より、4月の回数の方が4回多い。3月の回数と4月の回数が同じ年代がある。3月の回数と4月の回数の違いが大きい年代がある。



折れ線グラフで3月と4月の回数の違いが最も大きい年代(①)と、またその年代の3月の回数と4月の回数の違いは何回(②)ですか。言葉と数を使って書きましょう。

- ア ①は2000年代、②は3月と4月の回数の違いが6回と記述。  
 イ ①のみを記述。(20.3%)  
 ウ ①を記述し、②3月の回数8回、4月の回数2回と記述。(10.2%)

正答 ア  
 正答率 32.2%  
 無回答率 22.0%

【分析】本問は、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題であり、正答率は、22.2%で、無回答率が13.6%である。無回答率が本調査の中で最も高く、22.0%である。

実際の指導に当たっては、第1に、「棒グラフや折れ線グラフの特徴と、その良さ、使い方を丁寧に指導することが大切である。第2に、データを整理する観点(本問の場合、各年代の3月と4月の桜開花回数)捉えられるよう指導する。第3に、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察させ、見出したことを表現できるような場面を設定し、繰り返し指導していく必要がある。

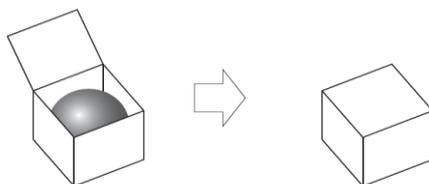
### (2) 学習のつまずきが見られる問題と分析

#### 【問題の概要】算数3(3)

直径22cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 $\text{cm}^3$ か求める式を書きましょう。ただし、神の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

- ア  $22 \times 22 \times 22$  と解答しているもの。  
 イ  $22 \times 22$  と解答しているもの。(16.9%)  
 ウ  $22 \times 3$  と解答しているもの。(6.8%)  
 エ 3.14を用いた式を解答しているもの。(6.8%)

正答 ア  
 正答率 22.0%  
 無回答率 13.6%

【分析】本問は、球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題であり、正答率は、22.0%である。無回答率は、13.6%である。

実際の指導に当たっては、第1に、円について、中心、半径、直径及び球の直径について数学的な活動を通して、実感的に理解させることが大切である(第3学年)。第2に、体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察する場面を意図的・計画的設定にすることが大切である(第5学年)。

### (3) 学習のつまずきが見られる問題と分析

#### 【問題の概要】算数4(3)

かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いていきました。

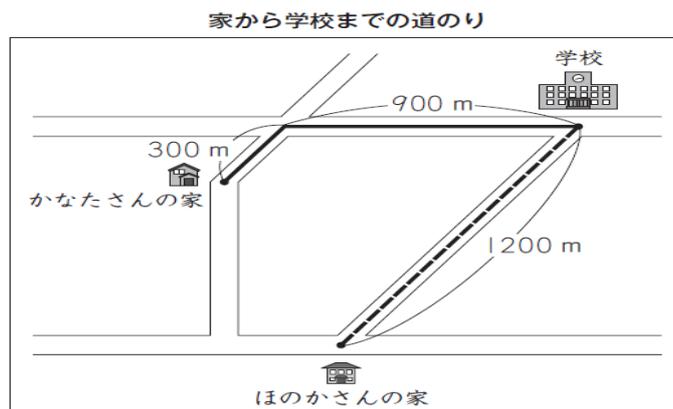
家から学校までの道のりは、右の図のとおりです。家から学校まで、かなたさんは、20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん



【分析】本問は、道のりが等しい倍の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題であり、正答率は、25.4%である。

実際の指導に当たっては、第1に、異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、速さなどの単位量当たりの大きさの意味や及び表し方について理解させたり、求めたりするような場面を設定し、繰り返し指導していく必要がある。第2に、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目させ、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かす場面を設定し、繰り返し指導の徹底を図る必要がある。(第5学年 C 変化と関係)

### (4) 学習のつまずきが見られる問題と分析

#### 【問題の概要】算数4(4)

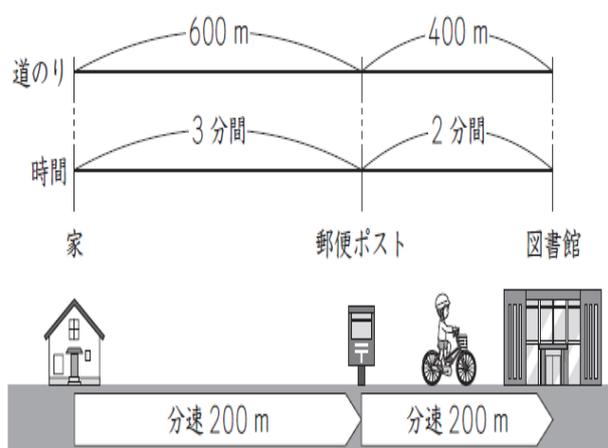
たけしさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通過して図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。

家から郵便ポストまでは、道のり600mで、3分間かかり、速さは、分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のり400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。答えを書きましょう。

- |   |                 |         |
|---|-----------------|---------|
| ア | 200 と解答しているもの。  | (28.8%) |
| イ | 400 と解答しているもの。  | (45.8%) |
| ウ | 1000 と解答しているもの。 | (6.8%)  |



【分析】本問は、速さなどの単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解しているかどうかをみる問題であり、正答率28.8%である。約5割の児童が、分速400mと解答している。

実際の指導に当たっては、形式的に「速さ(単位量当たりの大きさ)」と「時間」、「道のり」の関係を公式で覚えさせる指導ではなく、単位量当たりの大きさの意味や表し方について、数直線で作図させるなどの数学的活動を意図的・計画的に設定し、指導の徹底を図っていく必要がある。

(5) 算数 授業改善のポイント

◇課題「速さなどの単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し求めること。」及び「異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。」に課題がある。

問題1 かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いていきました。

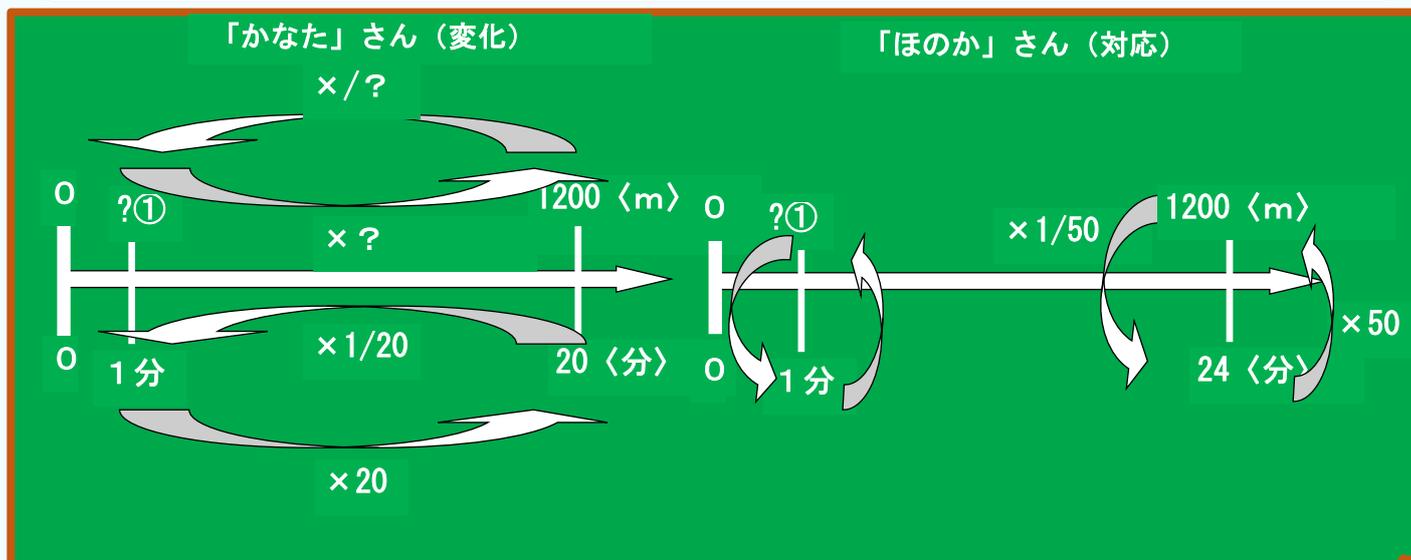
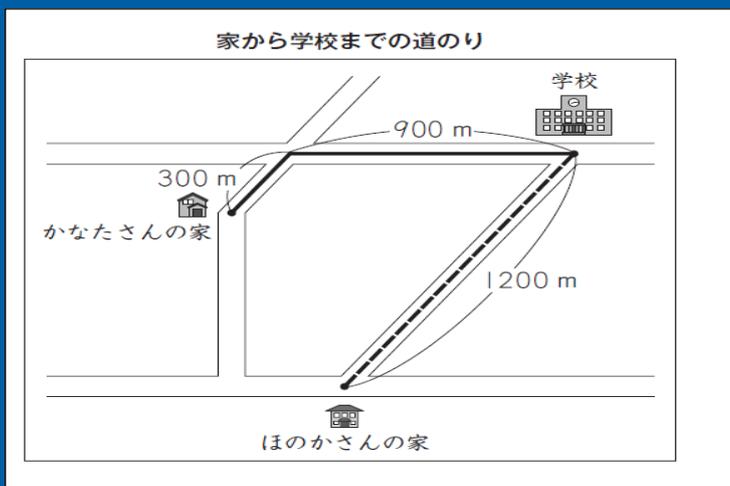
家から学校までの道のりは、右の図のとおりです。家から学校まで、かなたさんは、20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん



1  
【わけ】 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$  で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

1  
【わけ】 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$  で、1200mです。だから、かなたさんの歩く速さは、 $1200 \div 20 = 60$  で、分速 60mです。ほのかさんの歩く速さは、 $1200 \div 24 = 50$  で、分速 50mです。だから、かなたさんのほうが速いです。

◇「事象の変化と数量の関係の把握」のための問題解決的な学習ステップ（過程）

- ステップ1 二つの数量や事象の間の数量関係を考察し、ある数量が他のどんな数量と関係付けられるのか明らかにする。
- ステップ2 伴って変わる二つの数量について対応や変化の特徴を明らかにする。
- ステップ3 二つの数量の間の関係や変化の特徴を問題解決において活用する。

数量の関係を的確に捉えて立式し、問題解決を図り数学的に説明しよう！

## I 問題場面で提示された情報を取り出して整理する

0.4mの重さが 60gの針金があります。



この針金の長さを変えて、そのときの重さについて考えてみよう！

長さが 0.8m のとき、重さは 120g になります。

長さが 2 倍になると、重さも 2 倍になるのですね。

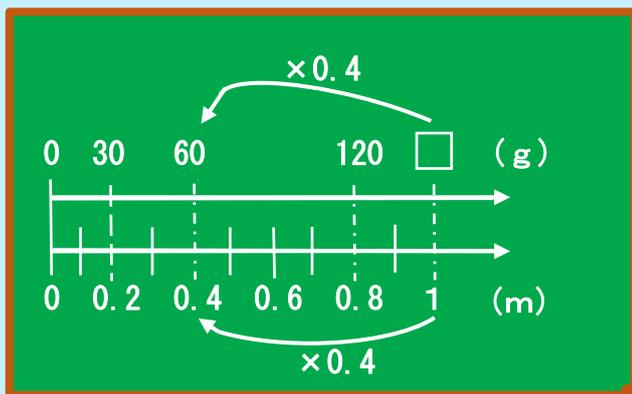
長さが半分の 0.2m のとき、重さも半分の 30g になります。

1mの重さが何gになるか考えてみましょう！

数を2倍にしたり半分にしたりするなどして、提示された情報を整理するなど考える場面を設定し、問題場面を把握することができるようにすることが大切である。

## II 問題場면을数直線に表して考え、問題解決のプロセスを説明させる

それでは、針金の長さや重さを、数直線に表して考えてみよう！



次に、どのように立式したか、説明してみよう！

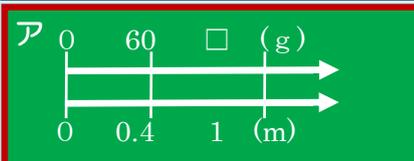
0.4mは、1mの 0.4 倍なので、60gも、□gの4倍になります。□×0.4=60 となるので、□は 60÷0.4 を計算すれば求めることができます。60÷0.4=150 で、□は 150 です。だから、1mの重さは 150g です。

問題解決（解き方）の過程を説明させる場面を意図的に設定することが大切である。

## III 「II」で習得した数学的な考え方を活用する

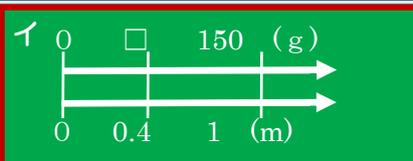
1～3の問題についてア、イ、ウから数直線図を、A、B、Cから式を選び、解き方を説明しよう

1 1mの重さが 150gの針金があります。この針金 0.4mの重さは何gでしょう。



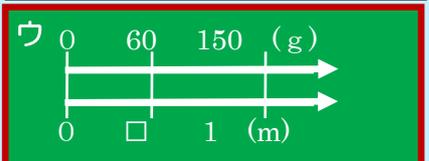
A 式  $\square \times 0.4 = 60$   
 $60 \div 0.4 = 150$

2 1mの重さが 150gの針金があります。この針金 60gの長さは何mでしょう。



B 式  $150 \times 0.4$

3 1mの重さが 150gの針金があります。この針金 60gの長さは何mでしょう。



C 式  $150 \times \square = 60$   
 $60 \div 150 = 0.4$

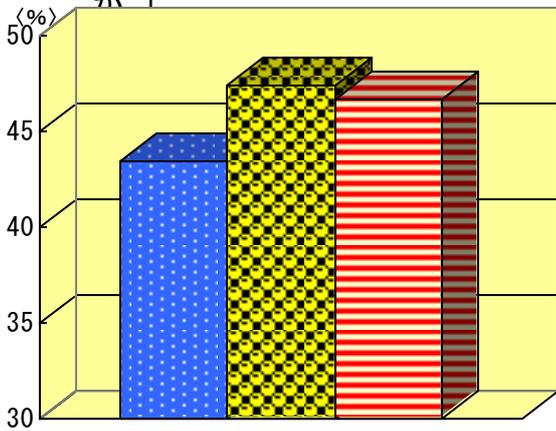
「基にする大きさ（基準量）」、「割合に当たる大きさ（比較量）」、「割合」のうち、どれを求めているのか、確認することが大切である。

## 7 児童質問紙調査結果の概要と指導改善のポイント

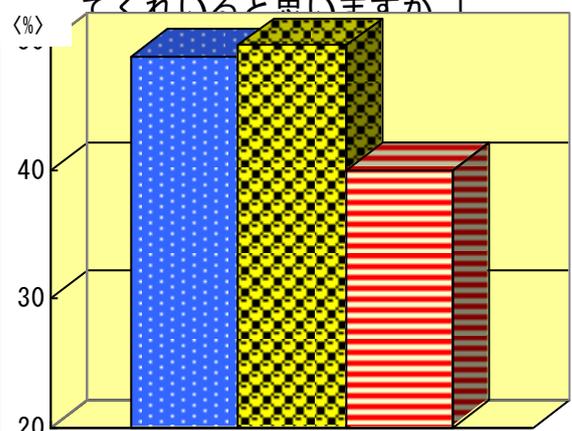
### (1) 児童質問紙調査結果の概要

下記のグラフは、児童質問紙において、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と「どちらかといえば当てはまらない」・「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と回答した児童の割合を示している。  
 \*全国：  東京都：  本校： 

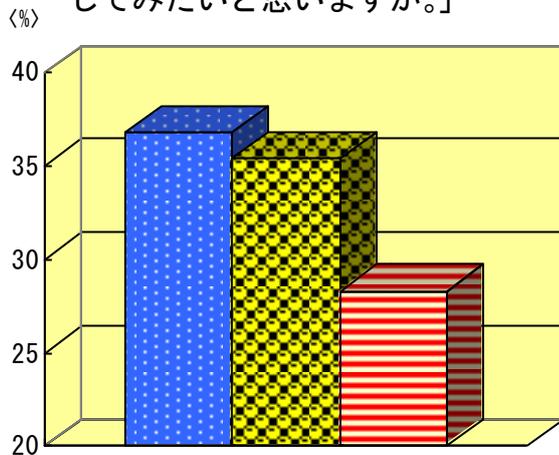
① 「自分には、よいところがありますか。」



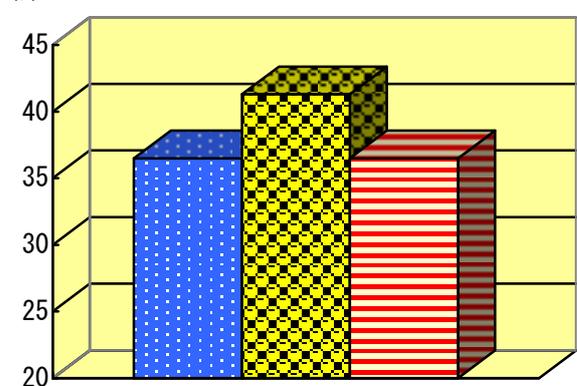
② 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」



③ 「地域や社会をよくするために何かを試してみたいと思いますか。」

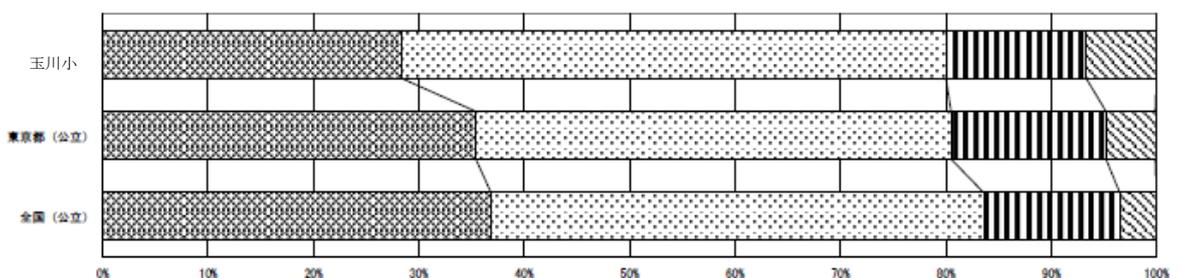


④ 「総合的な学習の時間では、自分で計画を立て情報を整理して調べたことを発表するなど、学習活動に取り組んでいますか。」



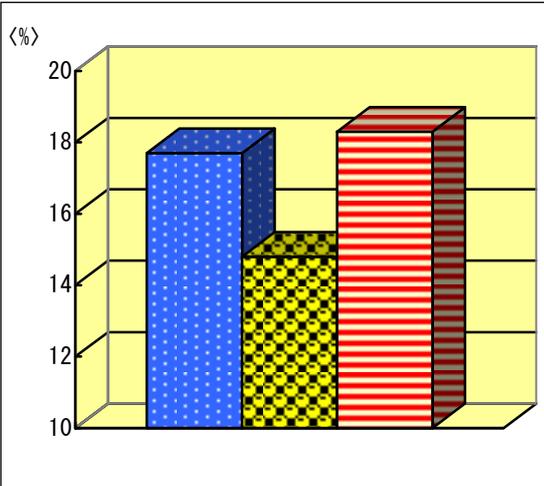
⑤ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか。」

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

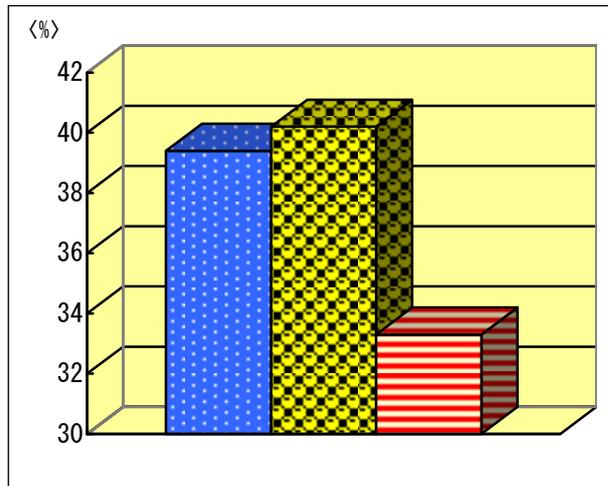


(2) 児童質問紙調査結果の概要

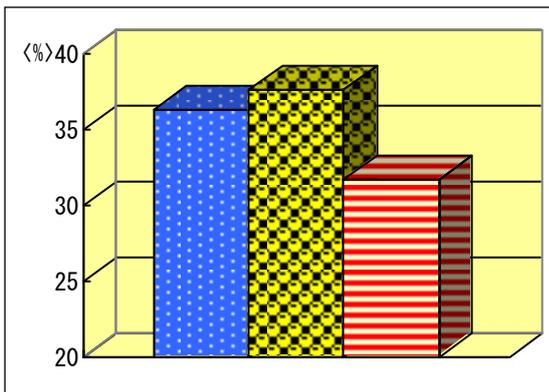
⑤ 「普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム（SNS等）をしますか。」  
（1.4時間以上）」



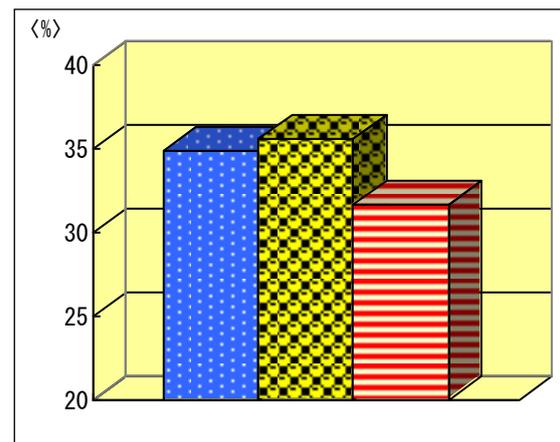
⑥ 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」



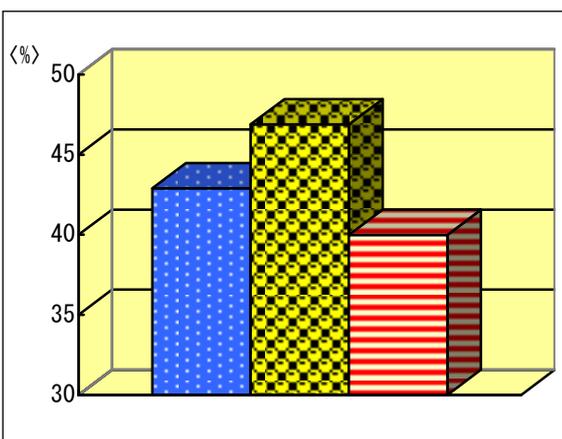
⑦ 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」



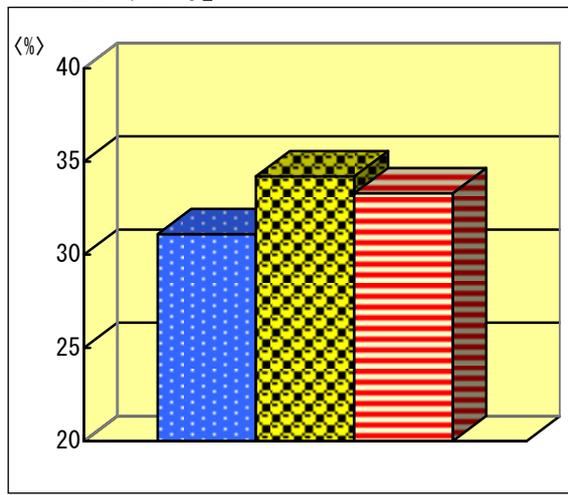
⑧ 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」



⑨ 「国語の授業で物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているかに着目していますか。」



⑩ 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」



## 8 各教科等における授業改善のポイント

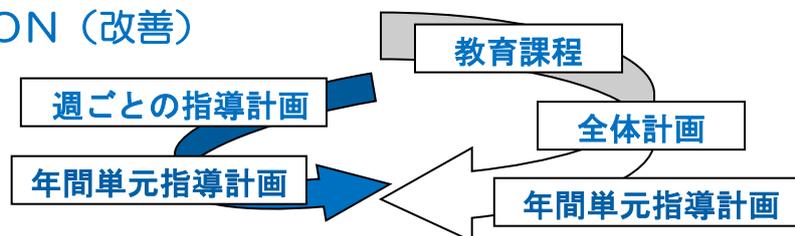
- (1) 各教科等の授業・朝学習において「読み解く」段階を意図的・計画的に設定する。
  - ① 複数の「連続テキストと非連続テキスト」から目的に応じた情報を正確に取り出す場面
  - ② 取り出した複数の情報を比較・関連付けて読み取る場面
  - ③ 読み取った内容の意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する場面
- (2) 各教科等の授業・朝学習と国語科「読むこと、書くこと、話すこと・聞くこと」をバランスよく設定する(①～③)。①「読むこと」⇒あらすじ(骨子)、心に残ったところ、その理由を考えて ②「話すこと・聞くこと」⇒伝え合い ③「読むこと」「書くこと」⇒再読み、記述する。
- (3) 「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして、表現すること」に課題があるため、全学級で、「心に響いた物語を紹介しよう!」の実践を実施する。
- (4) 単位量当たり大きさ、基準量・比較量・割合の意味理解できるよう数直線等を活用して、具体的に指導する。
- (5) 「玉小授業カスタンダード 20」に則った授業を展開する。
- (6) 学習の見通し、解決の見通しの徹底を図る。
- (7) 「振り返り(セルフ・モニタリングとセルフ・コントロール)」の指導の徹底を図る。

## 9 カリキュラム・マネジメント

### (1) カリキュラムPDC(作成・実践・評価)

- ① 年間指導計画を、当該学年の各教科について「学校経営グランドデザイン」、「学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、学期ごとに、各学年・専科担当(横串)が年間指導計画をチェック(大胆に朱を入れること)する。
- ② 「①」を吟味・検討し、「学校経営グランドデザイン」、「学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、上記の観点から、各教科担当(縦串)が次年度に向け年間指導計画を完成させる。

### (2) ACTION(改善)



★ 教育課程→全体計画→・・・←単元指導計画←週ごとの指導計画の、両方向からの評価改善を実施、それぞれを有機的に関連付け、系統化を図っていく。

#### ◇ 改善の視点

- ① 「何ができるようになるか」育成を目指す資質・能力について
- ② 「何を学ぶのか」学習(指導)内容(学ぶ意義)・教育課程の編成
- ③ 「どのように学ぶのか」学習(指導)方法・指導計画の作成
- ④ 「何が身に付いたのか」学習評価
- ⑤ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」発達を踏まえた指導
- ⑥ 「実現するために何が必要か」必要な方策